

市立秋田総合病院 病院祭
川尻小学校吹奏楽部の演奏会

川尻小学校吹奏楽部演奏会

院内保育
「こどもの国」発表会

消防車



山王中学校吹奏楽部演奏会

平成30年度の病院祭は、平成30年10月13日(土)に約300名の来場者をお迎えして開催しました。今年度は、川尻小学校吹奏楽部と山王中学校吹奏楽部による演奏会が行われました。また、看護師、理学療法士による健康相談コーナーや講演会などの医療に関する催しや小さな子どもさん向けのコーナーへ沢山の方にお越しいただきました。

平成30年北海道胆振東部地震 市立秋田総合病院DMAT隊派遣と 当院の大規模災害時 多数傷病者受け入れ訓練について

この度、平成30年9月6日に発生しました北海道胆振東部地震によりお亡くなりになられた方々並びにご遺族の皆様方に対しまして深くお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様方に心よりお見舞い申し上げます。被災地の一刻も早い復興を心より願っております。

さて、平成30年9月6日3時8分頃発生した北海道胆振東部地震において北海道からの派遣要請に基づき、市立秋田総合病院DMAT隊（医師1名、看護師3名、業務調整員2名）が現地に赴きました。DMATは、Disaster Medical Assistance Teamの略で、厚生労働省の認めた専門的な研修・訓練を受けた災害派遣医療チームのことです。大地震及び航空機・列車事故等の災害時に被災者の生命を守るため、被災地に迅速に駆けつけ、移動時間を除き概ね48時間以内を基本とした活動期間で救急治療などの現場活動のほか、現地本部活動、医療搬送、病院支援や情報収集等を行います。

当日の発災後の動きとしては、9月6日の3:08頃

の発災後に北海道からDMAT隊派遣要請を受け、同日19:30救急車の装備点検を終えて病院を出発し、翌9月7日朝から9月8日18:00までの任務を完了・撤収した後、9月9日13:30フェリーと陸路を経由して病院に帰還しました。

今回の災害派遣では、広域災害現場の札幌市内の被災地域の医療需要を把握し、被災地における急性期の医療体制を確立することと被災地域での病院支援を行なう目的で活動を行いました。様々な情報が氾濫するので、医療ニーズを把握して、いかに優先順位を踏まえた確に医療資源を投入するかが常に問われている活動でした。

また当院では大規模災害時の多数傷病者受け入れ訓練を行い、災害時医療の備えを行っています。これは災害時の医療体制は平素とは大きく異なるため、普段からの訓練と啓発活動が欠かせないためです。今後の課題や改善点は多々ありますが、訓練を重ねて精度を高め、有事の際に対応出来る医療体制構築を目指して参ります。

災害派遣現場での様子



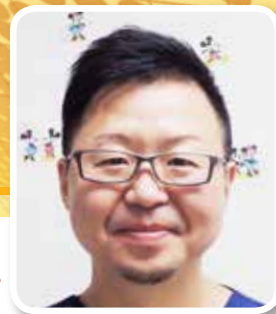
札幌市内および周辺地域の
医療機関の緊急情報を収集



活動拠点本部で行われた定期ミーティング



「摂食・嚥下障害」について



耳鼻咽喉科 高橋 雅史 先生

現在日本の高齢化率は世界第一位です。65歳以上の人口が21%を越える超高齢社会と呼ばれるようになりました。この背景の中、2011年から肺炎が死因別の第3位に浮上しました。肺炎のなかでも特に誤嚥性肺炎が70%を占めており高齢者の誤嚥が問題と考えられます。誤嚥とは本来咽頭から食道へと送られていくべき飲食物や唾液などが気管に侵入していくことです。

ものを食べることは生きていく上で基本的な行為であると同時に楽しみの一つでもありますがこの食べることの動きが低下することを摂食嚥下障害といいます。摂食嚥下障害が進行しますと誤嚥性肺炎、或いは窒息の原因となってきます。

では、摂食嚥下障害を疑う症状にはどのようなものがあるのでしょうか。食事時のむせや咳、痰が絡むなどは比較的わかりやすい症状と思いますが食事時間が延長する、食事の際に首が前かがみになる、口の中が汚いなども嚥下機能に影響度の高い症状と言われています。

ます。また、認知症とも関連した食行動の変化も注意が必要です。具体的には、食べ物を認識できない、食べること・食べ方を忘れる、注意散漫になり食事に集中できない、詰め込み食い、すすり食べなどがあげられます。

当院では2017年度より常勤の言語聴覚士（嚥下リハビリ専門家）が2名に増員されそれに伴い嚥下ケアチームを立ち上げました。日々、検査やリハビリに励んでおります。また、サルコペニアと呼ばれる全身の筋肉量の低下と機能の低下による摂食嚥下障害に対しても平成28年度より摂食機能療法が可能になったことで訓練の対象患者は増加しております。

嚥下障害は食事指導やリハビリによって改善も見込まれますし、脳卒中、神経筋疾患、腫瘍など障害の原因は多岐にわたります。症状が続く時はまずは専門医（脳神経外科、脳神経内科、耳鼻咽喉科など）の診断を受けましょう。

感染管理認定看護師について

感染管理認定看護師 麻木 園子



感染管理とは、万に通じ“全ての人”つまり、病院へいらっしゃる患者さんやそのご家族、地域の皆さん、病院職員とその家族まで、多くの人を感染から守ることです。そのため、感染管理認定看護師は、院内から世界まで、どのような感染症が流行しているのかの調査、院内での感染管理体制の構築、感染に関わる院内外の関係部門との連携など多岐に渡ります。直接的な患者さんのケアと言うよりは、どちらかというと裏方の仕事に近いのかもしれませんが。

これからの季節、気をつけたいのはインフルエンザと感染性胃腸炎です。小児や高齢者は重症化しやすいので特に注意が必要です。そこで、病気にならない5つのポイントをご紹介します。1つめは、手指衛生です。手は見た目には汚れていなくてもウイルスを含む微生物がたくさん付着しています。石けんと流水で手指を清潔に保つ習慣を身につけましょう。2つめは咳エチケットです。マスクの装着はインフルエンザの予防に有効といわれており、当院でも面会時の装着をお願いしています。き

ちんと鼻と口を覆って正しく装着するようにしましょう。3つめはワクチン接種です。残念ながらノロウイルスのワクチンはまだありませんが、ロタウイルスやインフルエンザウイルスのワクチンは有効です。アレルギーがある方を除き接種することをお勧めします。4つめは免疫力の向上です。バランスのよいお食事と十分な睡眠で、普段から病気に負けない体づくりに励みましょう。5つめは、抗菌薬（抗生物質）を適切に使用することです。ウイルスの病気に抗菌薬は効きません。「薬の効かない菌（耐性菌）」の予防のためにも抗菌薬は必要などのみ、医師の指示通りきちんと使用しましょう。

当院のモットーでもある「すべては患者さんの笑顔のために」病院スタッフと共に見えない敵（微生物）と闘って参りたいと思います。感染管理に関するご質問がございましたら、お気軽にお尋ね下さい。

シリーズ病棟紹介 — 第10回 —

3階北病棟

3階北病棟は、腎・泌尿器科32床の病棟です。他に25床の透析センターも稼動しています。

腎泌尿器科は、県内各医療機関からたくさんの患者さんをご紹介いただき、検査・手術・治療・透析をおこなっています。腎・尿管・膀胱・前立腺などの癌や、尿路結石の手術件数が多く、腎盂腎炎による発熱・敗血症や、透析トラブルなどの緊急入院も多数受け入れているので、毎週病棟の1/3～半数の患者さんが入れ替わるほど入院・退院が激しい病棟です。

数日から1～2週間の短期入院の患者さんが多いので、医師・看護師・臨床工学士・薬剤師・栄養士・社会福祉士・理学療法士など各専門職種での連携を密にして、短期間で効果的な治療が受けられるようにと考えております。緩和ケアが必要な方、ストマケアが必要な方、退院支援が必要な方には、専門看護師や認定看護師、専任看護師が病棟看護師とともに関わっており、多方面から患者さんや

ご家族をサポートできるように取り組んでいます。

病床の回転が早いので、空床利用で様々な科の患者さんにもご利用いただくこともあります。慌ただしく忙しい病棟ですが、何科であっても、患者さんご家族には「親身になって、優しく丁寧に関わっていこう」と全スタッフが心がけています。退院時アンケートには、「全員優しく丁寧だった。」とか「忙しいのにみんな優しく患者に安心感を与える対応だった。」などのコメントをいただいています。今後もその言葉とおりの対応ができるようにみんなで頑張っていこうと思っています。

3階北病棟師長 阿部 ゆかり



地域医療連携の会 会員紹介

いとう内科・胃腸内科クリニック

伊藤 紘朗 先生

□診療科目：内科、胃腸科、消化器内科

ご縁あって仁井田御野場地域にH30年10月より内科・胃腸内科クリニックを開業いたしました伊藤紘朗と申します。当院はナイス仁井田南店の駐車場に位置しておりまして、人気拉麺店の桜木屋さんの二軒となります。

市立秋田総合病院には小松理事長先生のご厚意でH20年1月よりH21年3月まで消化器内科に在籍させていただいておりました。その時には先生方、並びにスタッフの皆様方には大変お世話になりました。この場をお借りいたしまして御礼、感謝申し上げます。

経歴としましては、県南の横手高校を卒業の後、昭和大学に入学卒業、同大学病院に10年間在籍してまいりました。また千葉柏市にある国立がんセンター東病院で最新の内視鏡、がん治療を学ぶ機会があり、生涯の専門を内視鏡診断・治療、がん治療と決めました。H20年に地元秋田に戻り市立秋田総合病院、白根病院の勤務を経てこの度の開院となりました。

当クリニックでは一般内科（風邪、高血圧、高脂血症、糖尿病等）、専門の胃腸科、消化器内科の診療をしています。基本的に絶食で受診頂ければ当日に腹部エコー検査、胃カメラ検査の対応出来るようにして



おります。専門は胃腸の内視鏡診断・治療です。

胃カメラ、大腸カメラ検査ではご希望に応じて鎮静剤を使用することで、いままで辛かったという方々にも受けて頂けるように考えております。

また自分の専門外の疾患でも、患者さんの訴えを丁寧に聞いて高次医療機関へご紹介するといった橋渡しの役割も重要と考えております。

現在開院したばかりのため右も左もわからない状態ですが、スタッフに恵まれ、日々患者さん一人一人に真摯に向き合っております。午後の患者さんが空いている時など、隣の桜木屋さんに長蛇の列が、ちょっと間違っただけで当クリニックに並んでくれないか…と思いつつも、焦らずに正直に診療していきたいと考えております。

医療は個人で行うには難しいと考えております。市立秋田総合病院の先生方、スタッフの皆様方にご協力いただき、患者さんに少しでもより良い医療を提供出来ればと考えております。今後ともご指導のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

ホテルシェフの美味しい食事で、赤ちゃんのお誕生をお祝い！

管理栄養士 佐々木美弥子

今年度より当院では分娩プロジェクトが発足しております。栄養室では、出産されたお母様に提供している『授乳食』を更に美味しくリニューアルしました。

和食中心であった従来のメニューを一新し、ホテルと当院の栄養士が監修して洋食をより多く取り入れました。

授乳婦の食事は、産後の母体の回復と、赤ちゃんの栄養である母乳にも影響を与えます。また、子育ての為の健康な体づくりも重要です。

是非、当院でご出産され、しばしの贅沢を味わって下さい。



退院前日に提供される、お祝い膳！

お祝い膳 お品書き

- 赤飯
- トマトとアボカドのマリネ・サラダ仕立て
- オニオンスープ
- 金目鯛と海老のソテー
- 牛肉のステーキ
- 紅茶のシフォンケーキ

皆さんに喜んで頂けるよう、心を込めて作ります。



鈴木調理長

チョコ蒸しパン & ハーブティー



日替わりのおやつは毎日のお楽しみ！

インフルエンザ治療薬について

インフルエンザ流行の時期となってきました。インフルエンザ治療薬は、インフルエンザを治すお薬ではなく、インフルエンザの重症化の予防や有熱期の短縮などに効果があるお薬です。そのため、症状が出てから48時間以内とすぐに使用開始することが推奨されているため、早期の受診が重要となります。特に小児や妊婦、高齢者等の重症化リスクの高い方では、すぐに受診するようお願いいたします。

現在、インフルエンザ治療薬は、飲み薬、吸入薬、注射薬と様々な剤形があります。また、お薬の服用方法では、5日間吸入、内服が必要な薬もありますが、1回分を吸入、内服するだけのお薬もあり、処方された薬の種類により服用方法が異なるため、少し複雑かと

思います。小さいお子様では吸入薬を上手に服用できない場合もあるため、心配な場合や不明な場合はご相談ください。

2007年に報道等でインフルエンザ治療薬のタミフル服用後の異常行動が大きく取り上げられたかと思えます。その後も引き続き異常行動についての調査が行われ、インフルエンザ治療薬の種類、服用の有無に関わらず、非常に少ない頻度ですが年間数十例の発症と数例の死亡が報告されております。そのため、お子様がインフルエンザと診断された場合は、インフルエンザ治療薬の種類や服用の有無に関わらず、少なくとも治療開始後2日間は小児・未成年者のお子様を一人にしないよう看病をお願いします。

商品名	タミフル	リレンザ	イナビル	ラピアクタ	ゾフルーザ
一般名	オセルタミビル	ザナミビル	ラニナミビル	ペラミビル	バロキサビル
投与経路	内服	吸入	吸入	点滴静注	内服
用法	1日2回×5日間	1日2回×5日間	単回	単回（複数回可）	単回
小児への投与	○（生後2週以上）	吸入可能な場合のみ	吸入可能な場合のみ	○（生後4週以上）	○（10kg以上）
予防投与（保険適応外）	○	○	○	×	×
ジェネリック	○	×	×	×	×

登録医紹介コーナーの設置のお知らせ

平成30年11月現在、当院との登録医療機関は236施設（登録医は260名）となっております。当院を訪れる患者家族の皆さんに登録医療機関を知っていただき前方連携・後方連携がますます円滑に進むよう紹介コーナーを設置しました。ご自宅の近所で通いやすい医院やクリニックを「かかりつけ医」として持つことは、国も推奨しています。当院においても、入院が必要なときは紹介していただき治療後は、かかりつけの先生へ戻れるよう先生方との連携を図っております。

現在は、登録医の先生の許可をいただいた124施設分のみの設置であり、紹介内容も十

分とはいえませんが、今後は紹介医療機関数、内容とも充実させていきたいと考えております。

正面玄関の一番目のつく位置にあり、お越しの際は、是非立ち寄ってリーフレットを手にとってみてください。尚、ご不明な点は正面玄関左手に地域医療連携室がございます。いつでもお声がけ下さい。

地域医療連携室参事 成田 睦子



患者の権利

1. 個人としていつも人格を尊重される権利があります。
2. 誰でも平等に良質で安全な医療を受ける権利があります。
3. 十分な説明を受け、自ら治療法を決定する権利があります。
4. 自分が受けている医療について知る権利があります。
5. 医療を受けるときに主治医以外の意見（セカンドオピニオン）を聞く権利があります。
6. あなたの医療上のプライバシーが保護される権利があります。
7. 自分が受けている医療について苦情を申し立てる権利があります。

市立秋田総合病院

理 念

- 市立秋田総合病院は、すべての人々の幸福のため、良質で安全な医療を提供し続けます。

基本方針

- 常に医療水準の向上に努め、地域の中核病院として多様化する医療への要望に応えます。
- 患者さんの権利や意思を十分に尊重し、診療情報の提供による相互理解に基づく医療を行います。
- 医療の安全のさらなる向上に努め、患者さんが安心できる医療を行います。
- 職員にとり働きがいのある就労環境の整備に努め、質の高い医療人を育成します。
- 業務の改善と効率的な運営に努め、健全で安定した経営基盤を確立します。

編集・発行／市立秋田総合病院 平成31年1月31日発行

〒010-0933 秋田県秋田市川元松丘町4番30号 Tel (代表): 018-823-4171 Fax: 018-866-7026

E-mail: ro-homn@city.akita.akita.jp

http://www.akita-city-hospital.jp/